

# 国際協力の現場を語る

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦労、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

日時：毎月第3水曜日 15時00分～16時45分

会場：JICA横浜、Web会議(Zoom)併用  
または、横浜市消費生活総合センター

<https://www.yokohama-consumer.or.jp/info/index.html>

会費：無料（どなたでも自由に参加できます）

主催：NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会

後援：JICA横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を  
活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。）

問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内  
シニアボランティア経験を活かす会 水曜会

Fax：045-663-3263 担当：井坂敏之（046-887-0286）

URL [https:// jicasvob.com](https://jicasvob.com) E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第217回 2月21日 (水) エクアドル (鈴木 核)	 アチュアル族の子どもたち	<b>「アチュアル族の叡智に触れる旅」</b> エクアドルの熱帯雨林に暮らすアチュアル族は、お金を用いず自然と共に暮らしてきた先住民で、豊かな文化、智慧を保持しています。そんな人々を訪問し、自然の豊かさ、彼らの文化・考え方に触れることで、地球温暖化や、貧富の差、差別問題など、多くの課題を抱える現代社会に暮らす私たちの生き方の新たな可能性を探求する旅を主催しました。どんな体験をしてきたか、ご報告したいと思います。
第218回 3月21日 (木) コスタリカ (白石 アレマン)		<b>「自然の楽園の国コスタリカ」</b> コスタリカは中央アメリカ南部に位置する国家。日本の四国と九州を合わせた面積と同じぐらいの広さです。また、日本と同様に火山、地震国でもあり、国土の42%が農牧地で、38%が熱帯雨林というコスタリカは、豊かな自然環境・生態系に恵まれてます。コスタリカでの活動について、プンタレナス技術専門学校において、日本の技術と文化に憧れ学習意欲旺盛な学生たちに情報通信の教育活動を報告するとともに休暇を利用した国内外の旅行を報告します。
第219回 4月17日 (水) ヨルダン (森岡 潔)		<b>「イスラムと砂漠の国ヨルダン」</b> ヨルダンは国民の9割以上がムスリムであり、国土の8割が砂漠という日本とはあらゆる面でも対極にある文化や自然環境を持った国である。ひたすらアッラーの教えに従って生き、来世には天国での幸福を願う人々との交流を通じて、同じ人間なのにこれほど考え方が違うものかという驚きを感じた。そんなヨルダンの技術専門学校において、教師や生徒たちに行ったマイコンを活用した物づくりの指導を報告するとともに休暇を利用した国内外の旅の様子を報告する。
第220回 5月14日 (火) ボリビア (飯淵 一樹)		<b>「ボリビアでの環境教育活動とその後」</b> 2014年から協力隊員として南米ボリビアに赴任し、ゴミ分別の指導や廃棄物行政の支援といった環境教育に2年間携わりました。南米最貧国と評されるボリビアで、その中でも特に辺鄙な山間の町でのボランティア活動でしたが、同僚の市役所職員など真剣に環境問題への対策を考えている人もいることは新鮮な驚きでした。当時の町の様子や活動の概要、特に力を入れた取組みとその顛末について紹介したいと思います。
第221回 6月19日 (水) チリ・パキスタン・ モンゴル (横溝 清子)	 民族服着用週間	<b>「3か国での日本語教育分野の活動」</b> 2004年から2005年まで南米チリのバルデビアで、2006年から2009年までパキスタンのカラチで、そして2010年から2012年までモンゴルのウランバートルで日本語教育の分野でSVの活動をして来ました。どの国でも主な活動は現地の日本語教師に日本語教授法や教室活動の指導をすることでしたが、教材作成や弁論大会の指導などもありました。3か国での活動を中心に、それぞれの国で体験したことをお話したいと思います。